

## 平成27年度「ふくしまの未来を担う高校生海外研修支援事業」実施報告書

県立 安達高等学校

### 実施期間・参加人数・滞在都市・現地交流校について

平成27年8月1日～8月9日まで、1年生6名、2年生6名、3年生2名、計14名がオーストラリアのブリスベン、モートン島にてホームステイをしながら、語学研修とエネルギー学習、Cleveland District High Schoolとの交流を行った。

### 実施概要について

#### ① 語学研修：Shafston 語学学校にて英語授業。授業時間 9:00～15:15

- 8月3日（月）：午前中は英語のレベルチェックテスト（ペーパーテスト、オーラルテスト）を受け、beginner（1名）、elementary（12名）、pre-intermediate（1名）クラスに分かれる。午後から英語クラス開始。生徒の感想：「先生の話す英語がほとんど聞き取れなくて困った。」
- 8月4日（火）：全日授業。二日目になり、徐々に英語が聞き取れるようになる。クラスの外国人とも友達になり、英語での会話が増えてきた。
- 8月5日（水）：午前中は英語の授業。午後は地元の Cleveland District High School での交流会。
- 8月6日（木）：全日授業。4日目にもなると、かなり英語にも慣れてきて積極的に授業に参加していた。最後のクラスが終わったときには、韓国人に声をかけられ、涙を流す生徒もいた。終了後に一人一人に修了証書が手渡された。

#### ② ホームステイ：各家庭に1名～3名でホームステイをした。ホストファミリーの笑顔と優しさのおかげで、安心して5泊のホームステイを過ごすことができた。最初は戸惑いも多かったが、毎日英語を使う環境で過ごす中で、耳や目が英語に慣れてきたこと、また自分の意見を主張するのが当然という状況に置かれたことで、英語で自分を主張し理解してもらうことの重要性に気づいた。

また、各家庭に入るということで、オーストラリアという外国を身近に感じ、異文化理解を進めることができた。食、生活、文化、習慣、行動、考え方、学校、交通、その他沢山あるが、単なる観光旅行では得られない経験知見を得られた。

#### ③ 交流：Cleveland District High School の生徒達14名とランチを共にし、お互いの文化、興味関心事について活発に話し合うことができた。8<sup>th</sup> grade-9<sup>th</sup> grade（中2、中3ぐらい）の生徒達がbuddyとして一人一人についてくれた。彼らは日本語を選択していて日本全般に興味があるので、日本語で自己紹介したり、学校を案内してくれた。本校生徒は彼らが日本語を一生懸命話しているのに感激していた。コミュニケーション手段として英語を使い、自分の思いを伝えることが大切だと実感したようである。



### 福島の現状発信や現地におけるエネルギー学習について

Cleveland District High Schoolにおいて、約40人の生徒と先生方の前で、福島について30分間のプレゼンテーションを行った。(1)東日本大震災関連、(2)震災からの復興例、(3)福島の魅力発信を主な内容とした。質疑応答では原発、食べ物、アニメ、音楽、有名人についてなど、活発に意見交換をして時間が過ぎた。

エネルギー学習の場としてブリスベンから船で約1時間のモートン島を訪れ、約1時間のBACK OF HOUSE TOURに参加し、島内で使用される電気が作られる施設や島内から出た汚水を浄化し自然に帰すための施設等を見学し、説明を受けた。

モートン島では電気を自給自足している。この電気は8機のディーゼル発電機で供給される。通常2機が絶えず作動して島に十分な電力を供給し、残りは予備となっている。

発電機からは熱が発生するので冷却のために水が用いられる。冷却の過程で水が暖められ、リゾートの温水の大部分をまかなうことが可能である。よって、ディーゼル発電機の使用は、発電と温水供給の2つの役割を果たすことを可能とし、非常に効率のよいものとなっている。また、モートン島では水は地下の淡水層からポンプで汲み上げて使用している。そのため排出される全ての下水は、環境に配慮した3つの汚水槽で処理される。1つ目の汚水槽では固体物を分離・除去し、2つ目の汚水槽ではバクテリアを利用し、有機物を除去している。3つ目の汚水槽では微量の塩素で殺菌され、水を安全に自然に戻すことができるようになる。その水が再び長い年月をかけて砂で濾過され地下水となる。美しい自然と環境を守るために厳しい規則に従い、週に1度の水質検査を実施するなど、環境に配慮した取り組みが行われている。

### 実施後の成果について

まず一つ目に英語に対するプラスの変化が挙げられる。生徒と話してみると、「もう一度語学研修に行き、今回の反省を生かしてもっと英語でコミュニケーションを取りたい」「英語の授業が以前より楽しくなった」など、以前と比較して英語に対する向上心を持つようになった。

二つ目は、異文化や国際理解への興味関心の高まりである。本校は県内唯一のユネスコスクールであり、その関係でJICAや海外との交流も多い。研修生徒たちの何人かはユネスコスクールとしての活動に積極的に参加してくれるようになった。

三つ目は、将来への展望である。何人かの生徒は自分の将来を真剣に考えるようになった。ある生徒は、以前は考えていなかった英語を使った仕事に付きたいと思い、ある生徒は看護師への夢は変わっていないが、その拠点を日本だけでなくグローバルに考えるようになった。

四つ目は学校生活におけるプラスの変化である。研修前は友達に誘われて、その後について行動していた生徒が、自ら進んで行動するようになったり、教員に提案されたことに消極的な反応を示していた生徒が、前向きに取り組むようになるなどの変化が見られた。日々の学校生活においても、表情が研修前より生き生きとし、海外研修を通して様々なことを経験したことが自信に繋がっていることが伺える。

研修を経験した生徒達が、周りの生徒達に良い波及効果を与えてくれることを期待している。

